

5 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産状況は平年並み。入・集荷は間伐主体で順調。入荷は順調なものの製品の荷動きが依然好転せず、スギ柱材を中心に再び引き合いが弱まっている。一方、ヒノキ材についても依然低調な荷動き。市況は強基調に転じたスギ柱材が再び値下がり。スギ中目材は出材少なく強保合を維持。ヒノキ材は柱、中目とも横這いながら、値下がりの気配。群馬は、原木の入・集荷及び原木在庫状況とも特に問題なく、操業度はやや低調。受注・販売状況は、なかなか受注が回復せず、製品在庫はやや多め。製品価格はスギがジリジリと低下。需要が低調の中、地域型住宅ブランド化事業への取り組みが活発化しており、これにより工務店の差別化が更に促進されると思われる。

2. 米材

3月の米国新設住宅着工戸数は、前月比5.8%減の年率65万4千戸となった。米国丸太は、中国需要の低迷が続いている中で、地場製材所の需要が増加してきたことから下級材が若干値上げ、輸出用材は保合。カナダ丸太も同様にセカンドは保合、細丸太(28cm下)、オールドは出材不足で強含み。産地の港頭在庫は、伐採量と出荷量とのバランスが取れた状態で前月並みの数量。ウェアハウザー社の5月積み米マツISソートは前月価格据え置き。米材丸太の入・出荷、在庫は横這い。大型港湾製材工場の4月の荷動きは回復。内陸部製材工場は依然低調で回復の兆し見られず。製材品のTLT(東京木材埠頭)の4月入荷量は43,000m³で例年並み、出荷量は前月比13%増で、在庫はほぼ横ばいで推移。産地情勢は、カナダは悪天候で伐採量が少ないため、製材品の生産量に影響すると予測。米マツ製材品の産地価格は、丸太価格上昇により更なる上昇が懸念。荷動きは停滞気味、先行き価格にも大きな変化はないと予測。

3. 南洋材

サバの天候はほぼ回復したが、山間部では断続的に雨が降っており、規制もあって出材は不調。現地の合板、製材工場からは値下げ要求があるも、伐採業者はオイル等の値上げによるコストアップから、値下げに応じず丸太の相場は横這い。製材品の相場も良材不足で、強含みのまま推移。サラワクは、3月末から天候が安定したが、ここに来て再び不順となっている。出材順調と見ていた地元工場及び消費国は、丸太の仕入れに少々不安を持ち始めている。特に、インドのバイヤーは堅木類中心に買い始めており、日本向けメランティ太材、良材も相場は強含み。PNG・ソロモンは、6月の総選挙がらみで輸出許可の発行が不調で船積

みが遅れ気味。南洋材丸太の入荷はやや減少、出荷は横這い、在庫はやや減少。製材品の入荷は横這い。原木の販売は、合板・製材用とも低迷。製材品の販売は、全般的に荷動き鈍い。

4. 北洋材

ロシア極東は中国向け貨車渡しが低迷し、非常に苦しい局面。日本向け本船についても、一部の小手は一杯分の在庫も捌ききれず、値下げオファーが出ている模様。大手シッパーも価格を下げざるを得ず、CIF\$160-165/m³と1年半ぶりにカナダ材と同レベルで、一部合板メーカーはロシア材への興味が出始めている模様。シベリア地方は春の到来早く、冬山造材も終盤。例年、ロシア内外から丸太の引き合いが殺到し、価格急騰のシチュエーションであるが、満州里をはじめ例年になく原木の引き合い弱く、需給バランスを取る良い材料となっている。富山港・富山新港の4月丸太入荷は、18,847 m³(アカマツ 7,899 m³、カラマツ 2,068 m³、エゾマツ 8,880 m³)と先月比19%増。一方、製品は11,287 m³で先月比35%増。丸太の荷動きは低調。製材品は首都圏で輸入完成品の荷動きが低調で、港頭在庫も増加気味。出荷は低調で在庫は1~2ヶ月。丸太価格はエゾマツ、カラマツ、アカマツとも弱含み。製材品は弱含み。国内製材工場の採算状況はエゾマツ丸太はトントン、アカマツ丸太は不採算。受注低調で製材の採算合わず、特殊サイズでの受注生産に切り替えて対応。

5. 合板

合板用国産材、米材丸太とも価格に大きな変化はないが、南洋材丸太は、じり高傾向。各メーカーともに、原木在庫に問題なく、南洋材合板メーカーは製品在庫の増により、減産を継続。3月の国内合板生産量21万m³のうち、針葉樹合板は19万m³となったが、出荷量は16万m³と低迷し、昨年8月以降生産勝ちが継続中。このため在庫は22万m³となり、市場では生産調整が望まれている。針葉樹合板は、前月と比較して荷動きは回復傾向だが、メーカー在庫増による需給バランスの乱れから、市場ではメーカー側の値戻しに対する反応は鈍く先行き不透明。足並みをそろえた生産調整が不可欠であり、需給均衡が価格安定に繋がるとの見方が大半。国産南洋材合板は、引き続き荷動きは低調で価格は横這い。針葉樹合板は実需が出始めたことで荷動きは回復傾向だが、価格動向が不透明なため慎重な手当は暫く続く見通し。輸入合板の荷動きは12mm厚品を中心にまずまずの状態。川上では強基調が続いているが価格はなかなか上がらず、値戻しのタイミングを見計らっている状況。先行き輸入合板は産地価格が上昇していることから、品薄品目を中心に徐々に値戻しが浸透する見通し。針葉樹合板は引き続き生産調整が注視され、価格は需給バランス次第。

6. 構造用集成材

原料・ラミナの入荷は順調で、5月もほぼ計画通りと予測するが、一部で現地のコンテナ予約の関係で、夏以降の入荷に遅れが懸念。第2QTRの交渉がスタートし、15~20ユーロの値上げを唱えている。フレートの値上がりで現地工場の早急な収支改善を理由に強気の交渉が続き、夏以降の入荷ラミナは更なる値上げとなる見込み。国産集成材の販売、荷動き、受注及び在庫は横這い。輸入集成材は円ベース53,000円/m³での交渉が続いたが、結局40,000

円台後半で決着した模様。売りが弱く、日本の集成材メーカーの値上げ唱えも弱いことから、輸入集成材も値上げしきれない状況。全般的に連休前、連休明けも大きな混乱はない。

7. 市売問屋

国産構造材は、スギ羽柄材に多少動きがある以外はスギ、ヒノキとも荷動き鈍い。外材は全般的に小動き有るも、まとまった動きはなく買い方も在庫意欲乏しい。造作材は、国産材では入荷が薄い建具・造作用のスギ平桁及び青森ヒバ良材の動きは良いがヒノキは動きが鈍い。外材は、依然スプルス、米ヒバの良材少なく、引き合い多いが対応に苦慮。全般的に木造一戸建ての着工数が増えず、リフォームやマンション等の内装主体の当用買いが多い。買い方は在庫意欲に乏しく、市日の来客数も減少。春需への期待は大きかったが、4月を過ぎ実需は少ないというのが実情。多少需要回復の手応えも出てきているので連休明けに期待。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、ヒノキKD柱、土台とも保合。外材は、米ツガKD平割、正角、ロシアアカマツ垂木は弱保合。WW間柱弱い。造作材スプルス、ピーラー良材少ない。タモ、ナラ材保合。WW、RW集成材は梁、柱とも弱保合。合板は、針葉樹、ラワンともに保合。床板、フローアは変わらず。プレカット工場は、新規受注は回復傾向。工務店はリフォーム中心に仕事が出てきている。県産材の見積が多くなってきているが仕入れルート限られ見積の多くは決まらない。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)